お茶の水女子大学
スーパーグローバル大学等事業経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援
「最終評価シンポジウム」実施報告

A. 日時：平成 28 年 12 月 21 日（水）　10:00～13:30
B. 場所：お茶の水女子大学　第一会議室（本館 213 室）
C. プログラム内容
1. 開会挨拶　　室伏 きみ子 （学長）
2. 活動成果報告
3. 事業評価委員による講評
4. 閉会挨拶　　高崎 みどり（理事 副学長（教育担当））

D. 活動成果報告内容（発表順・敬称略）
司会：佐々木 泰子（副学長（国際・海外同窓会担当））
(1) 千葉 和義（グローバル人材育成推進センター副センター長）
グローバル人材育成推進事業の全体に関する概要説明が行われた。
- 目的
- マネジメント体制と評価および改善の取組
- 課題と今後の対応方針

(2) 戸谷 陽子（グローバル教育センター・センター長）
留学促進の事業が報告された。
- 留学生の派遣・受入事業
- 協定機関（大学）
- 長期・短期交換留学の派遣
- 受入留学生および派遣学生の相談・支援業務
- 「日本語サマープログラム」「日本語教育実習」「日韓学生フォーラム」「国際学生フォーラム」

(3) 清水 徹郎（外国語教育センター・センター長）
外国語教育推進事業が報告された。
- ACT（Advanced Communication Training）プログラム
- 「外国語学習相談室」を備えた「ランゲージ・スタディ・コモンズ」
- 英仏独語の各会話グループの活動、「イングリッシュ・キャンプ」
- 卒業年次における「英語スタンダード達成者数」
- 第二外国語（ドイツ語・フランス語・中国語）検定試験合格者数

(4) 半田 智久（教育開発センター・副センター長）
学修ナビ「学修成果アセスメント」システムについての報告が行われた。
- 「グローバル・コンピテンシー ＆ パフォーマンスポートフォリオシステム」
- GPA 評価の組み込み

- 自らのベストパフォーマンスをインターネットで外部公開するシステム
- 「TOEFL-ITP score CEFR 国際参照枠での経年比較」（システムの一部）
- 将来的な統合学修ポートフォリオシステム運用の見通し

(5) 石田 安実（グローバル人材育成推進センター・特任准教授）

学生に対するグローバル意識の啓発活動について報告された。

- シンポジウム「GREAT-Ocha」による学術的能力のグローバル化の努力
- 「女性グローバルリーダーシップに関する国際会議」：当該テーマに関して日本社会と国際社会における違いを講演・議論

(6) 細谷 葵（リーディング大学院推進センター・特任准教授）

グローバル化に関する「情報・資源の提供」「教育課程の拡充」「ネットワークの拡大」の観点から、以下の 3 つが報告された。

- 「英語によるサマープログラム」：グローバル・キャンパスの実現に向けて
- 「英語で専門科目を教える授業」による専門教育科目の体系化・拡充
- 「女性のグローバルな活躍のためのワークショップ」によるグローバルなキャリア形成のための「オプションとノウハウ」の提供

(7) 原 由紀恵（グローバル人材育成推進センター・特任助教）

広報活動と「グローバル化推進に関連する他大学との協力」の取組みが報告された。

- 「戦略的な国内外への情報の発信」としてミッションを日英両言語により周知
- イベント・プログラム・シンポジウム等の告知と結果報告
- ウェブページ訪問数の年度を追うごとの増加
- 教育環境・事務体制のグローバル化の努力として、大学 HP や「IT 便利帳」の英語版を改修または作成
- 平成 25 年度に「グローバル人材育成フォーラム」を開催。東日本第 2 ブロック・ブロック会議を平成 25、26、28 年度の 3 回開催。平成 28 度の「文科省 Go Global JAPAN：学生英語プレゼンテーション大会」では、本学チームが本選に選出。

E. 事業評価委員による講評内容（要約）（講評順・敬称略）

(1) 西田 純隆（公益財団法人三菱経済研究所 常務理事）

評価する点

- 長期間にわたって総力をあげて、さまざまな革新的な独自プログラムを順次、パーフェクトに近いかたちで実践してきたこと。
- 「学修成果アセスメント」ポートフォリオシステムの完成と、これをコアとする統合システム運用。
- プログラムの進捗や成果をウェブサイト等を通して国内外に継続して発信してきたことからは、貴学の力強いメッセージが感じられる。
- 異文化理解力の向上にむけたプログラムやワークショップやシンポジウム等を通して、グローバルレベルでの出会いや相互啓発、卒業後のキャリアイメージが蓄積されている。

ご提言・課題点

- 学生が身に付けた国際性・人間性・社会性をキャリアデザインと連結させることが重要だという意味で、企業・自治体・研究機関等と連携する必要性を感じる。
- 適性・意欲ある人材育成の努力が、卒業後の「成長できる場」「活躍できる場」につながり、各人の「生きがい」や「豊かな人生」に結びついていくことが大事だが、そのためにも、他の教育プログラムとも連動させ、時代の変化にも適合させて施策をレベルアップさせて行くことが必要だ。

(2) 吉井 淳（明治学院大学 副学長・国際学部教授）［文字起こし原稿からの要約による］

評価する点

- 多様なプログラムを実現、継続的なものとして確立していることは、非常に感心する。
- これらの取り組みは、他大学の見本となる。

ご提言・課題点

- 留学の協定機関（大学）は、学生のニーズ（たとえば英語国への留学）を反映させるだけでいいのか。グローバル人材の観点から“日本の国益”とのバランスを考える必要があるのではないか。
- 英語以外の第 3 言語に今後どのように取り組むのか、ウェブサイトにそうした他言語をどのように取り込むのかについて、将来の方向性を知りたい。

(3) パー・ヤンセン（ヴッパータール大学（ドイツ）物理化学・理論化学学科教授）

ヴッパータール大学で貴学からの留学生を教育指導する教員の立場として講評。

評価する点

- 英語で行われるサマープログラムにヴッパータール大から参加した学生は、毎年、他の多くの国・文化から来た学生達と議論することで異なる観方や経験を知ることができたと、大変満足して帰国する。

ご提言・課題点

- 貴学の学生は、たとえば会話など、リアルタイムの作業については不十分だ。特にそうした点での言語教育にできるだけ力を注ぐよう提案したい。

(4) トムソン木下 千尋（ニューサウスウェールズ大学(オーストラリア)言語学科教授）

評価する点

- 外国語力、海外留学、グローバル力、世界の大学・社会・産業界との繋がりの四つのそれぞれの領域において、様々な優れた試みに精力的に取り組み、データに裏付けられた成果を上げていることは賞賛に値する。
- 外国語力強化を必須の問題と捉え、外国語への取り組みを全学体制で行なっている（その例は、Advanced Communication Training(ACT)プログラム）。
- 交換留学提携校の数はもとより、短期長期共に交換留学に出て行く学生数も増加

している。海外からの留学生も定着してきている。

- 貴学における「グローバル力」とは、異文化間ミュンケーションスキルを持ち、外国語環境であってもリーダーシップを発揮できる力と理解した。その力をつけるための、自己内省能力や自律学習能力をも養う「学習ポートフォリオ」の試みは非常に有用だ。海外の学生と組んだ英語による研究発表「GREAT-Ocha」も、外国語による発信の機会を提供している。「英語によるサマープログラム」に留学生と貴学の学生の両者が参加することも両者のグローバル力育成に有益である。「英語プレゼンテーション大会」でのお茶大生の活躍も喜ばしい。
- 情報発信の領域では、公開フォーラム開催、ウェブサイトの充実、SNS の活用と、戦略的で活発な活動の結果、成果が上がっている。
- 外国語力、海外留学、グローバル力、世界の大学・社会・産業界との繋がりの全領域で、改善のシステムが整い、成果が上がっている。

ご提言・課題点

- 外国語力強化の指標である「スタンダード」を貴学の学生の何人が達成すべきか、については再考すべきかもしれない。2016 年度の「英語スタンダード」達成人数の目標は卒業生 500 人中 115 人とあるが、全員の達成が不可能なスダンタードでいいのだろうか。
- 交換留学に出て行く学生数も、海外からの留学生も定着してきている。しかし、活性の度合いをどこまで望むのか。2016 年度は（短期長期を含め）交換留学参加者の数が全学生数の 11%～12%に当たるが、たとえば海外の場合、全ての大学生の９割が何らかの形で在学中に海外体験をするという大学もある。
- 「ポートフォリオ」は、最終的に学生が就職活動に有効利用できるような形でまとめられると良い。大学生活と職業とのつながりを学生が自覚する機会にもなる。
- 英語による研究発表「GREAT-Ocha」は、少人数で密なコミュニケーションをとる部分と公開する部分と両者あって良い。
- 「英語によるサマープログラム」は、貴学と地域コミュニティをつなぐチャンスでもある。外国人留学生の地域コミュニティとの繋がりを貴学の学生が仲介することで、貴学生も地域と繋がることができる。
- 情報発信法について、第３外国語を充実させて行くなら、履修中の学生のプロジェクトとして、中国語・韓国語等、外国語によるウェブページの管理更新を任せてはどうか。
- 全体的に成果が上がっているが、今後の課題は、お茶大内のこの成果をお茶大外の文脈で検証する必要があるのではないか。グローバルスタンダードではどうなのか。同じような規模の大学と比較してどうなのか。外との比較検証がされても良かったと思える。

(5) 内田 伸子（桜蔭会会長）

評価する点

- すべての実績のエビデンスが示されている点で、良い成果報告であった。
- 戸谷先生の事業も、よい成果があがっていることがエビデンスの形で報告されていた。
- 清水先生報告の ACT（Advanced Communication Training）プログラムで、H28 年度卒業年次の英語スタンダード達成者数が 78 名に及んだことは、成果を示す。
- 半田先生の発表の「ポートフォリオシステム」は、外部公開をし、学生がきちんと記録することで可視化されメタ化され、自分の欠点が見えてくる、そこで次の目標を立てることで、それまでの体験が転移するところに意義がある。
- 石田先生のグローバル力強化事業は、企画力のすばらしさが光る。グローバル・コミュニケーション力の涵養に資する成果があった。
- 細谷先生の「英語によるサマープログラム 」は、質・量ともに向上させたという点で、今後につなげていける教育プログラムとして期待できる。
- 原先生の情報発信については、お茶大はこれまで上手くはなかったように思うが、ウェブによる事業活動発信をすることで効果･成果が出ている。

ご提言・課題点

- 「女性のグローバルな活躍のための WS」は、学部生・院生にグローバルなキャリア形成のオプションとノウハウを示唆することができるかということが、課題として残る。
- 事業展開で、貴学の実績をもっと活用してほしい。貴学がこれまで行ってきた、「アフガニスタン女子教育支援」や「中西部アフリカ幼児教育研修」のようなグローバル協力センターの優れた事業や、文系や生活学部系で取り組んできたものを踏まえて、よりプログラムを充実させて欲しい。
- 領域・分野横断の連携協働を期待したい。たとえば文教育学部の「グローバル文化学環」は、国際社会で活躍できる人材を育成するために作られた良いプログラムだが、こうしたプログラムと連携して欲しい。

(6) 最上 善広（お茶の水女子大学 大学院人間文化創成科学研究科長）

評価する点

- 新たなグローバルに活躍する女性リーダーの育成にとって、先駆けとなる重要な事業であった。この事業によって、語学教育の充実や、活発な海外派遣が行われるようになり、多くの教職員や学生達の眼がグローバル社会に向けられるようになった点を高く評価する。
- 海外派遣に関しては、多くの学生にその可能性を示したことだけでも、グローバル化に向けた意識の活性化がなされたと思う。最終的に派遣を断念した学生でも、その計画・準備の段階を通してグローバル化の実例に接することとなった。
- 海外協定校を増やす努力を通じて多様な派遣先が確保されたことで、これまでとは異なった留学生活がなされるようになり、帰国学生の体験談を通じて多くの学

生がインスパイアされている。

- サマースクール等を通じて、海外学生の受け入れを行うようになったのは大きな成果だ。海外からのゲストがキャンパス内を闊歩する姿が、季節の風物詩のようになっているのは、この活動がもたらした変革を象徴している。
- 外国語で専門教育を行う試みは教員側の意識改革をもたらしている。今回の事業を通じて、目標達成の声掛かりのもと、実施に漕ぎ着けたことは有意義であった。

ご提言・課題点

- 語学教育の強化については、学生達はそのメリットを積極的に受け止めている。教員の努力の結果、学生の外国語能力が飛躍的に高まることが期待される。今後の活動維持のためには、予算措置を含めた運用上の努力を継続する必要がある。
- 外国語で専門教育を行う授業に携わった教員は、今後の実施に向けて試行錯誤を繰り返すことになるが、その際に、英語授業の目的を明確に指示することを要求したい。英語の授業の開講を留学生確保に繋げるのであれば、それに即した授業内容にする必要がある。単純に、現在の専門教育の授業を英語で行うと言うことであれば、専門教育を母国語で行う利点を凌駕するようなコンセプトを示す必要がある。
- 本事業の実施により、本学に対する具体的な課題が整理・提示されたと考えられる。これらを経済社会の発展の牽引役となる女性グローバル人材の育成機能の強化にさらに役立てて頂きたい。